

委員会活動から

活動推進委員会(北海道技術士センター)

【活動推進委員会主催見学会報告(日帰り) 7月27日】

【活動推進委員会主催見学会報告(一泊) 9月10日～11日】

平成17年度の北海道技術士センター活動推進委員会主催の見学会を以下の要領で開催しました。

本年度は、日帰り見学会(7月27日)と、一泊見学会(9月10日～11日)を開催致しました。見学順に概要をお伝えします。

1. 日帰り見学会

○日時：平成17年7月27日 8:30～19:30

○見学先

- ・シーニックバイウェイ(ニセコルート)
- ・京極発電所(京極町)
- ・西村計雄記念美術館(共和町)

○参加人数：57名

○懇親会：札幌ビール園

① シーニックバイウェイ(ニセコルート)

シーニックバイウェイとは、景観・シーンの形容詞シーニックと、わき道・より道を意味するバイウェイ

を組み合わせた言葉です。地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境づくりを目指す施策です。

平成17年5月、シーニックバイウェイ北海道推進協議会が開かれ、3つのルートが指定されました。指定ルートは「支笏洞爺ニセコルート」「大雪・富良野ルート」「東オホーツクシーニックバイウェイ」です。ルート沿いの地域では、行政と地域の人々が連携した「美しい景観づくり」「活力ある地域づくり」「魅力ある観光空間づくり」が展開されます。

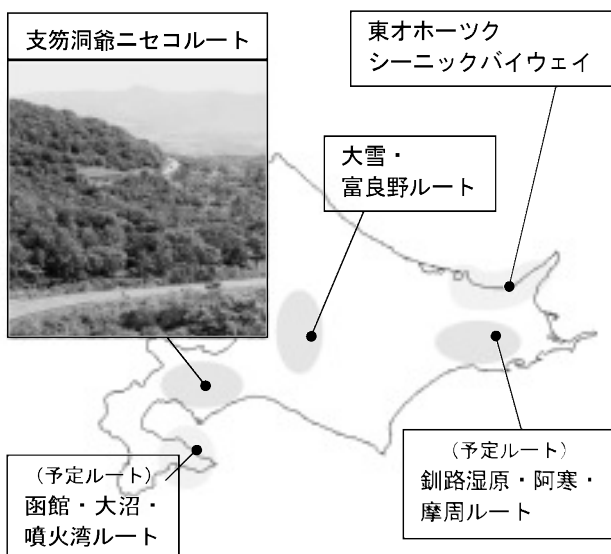
当日見学した支笏洞爺ニセコルートの、ニセコ羊蹄エリアは、羊蹄山のある美しく季節感のある風景や、尻別川をはじめとしたニセコの自然を体験できるルートです。

現地では、車内からの見学となりましたが、株式会社ドーコン交通部の小林岳さんと須田健さんからシーニックバイウェイ北海道の目的や取り組み等についての説明をいただきました。

② 京極発電所(京極町)

北海道初の純揚水式発電所となる京極発電所は、京極町の北部の台地上部調整地を、尻別川支流のペーパーナイ川と美比内川の合流部に京極ダムを築造し、上部調整池から京極ダム調整池までの総落差約400mを利用して、3台の水車・発電機により最大60万kWの発電を行う施設です。現在は、調整池造成のための掘削と堤体盛立などが進められています。

純揚水式発電とは、余剰電力を利用して、下部調整池の水を上部調整池に上げ、電力消費ピーク時に発電し供給する発電方法です。



道内のシーニックバイウェイ

京極発電所建設の技術的な特徴として、新型アスファルト表面遮水壁構造の採用、情報化施工への取り組み等が挙げられます。

この計画に携わる北海道電力株式会社の高野次長以下、北海道電力(株)京極水力発電所建設所より、2時間以上にわたる詳細な説明をいただきました。



上部調整池（完成予想図）



工事中の上部調整池



調整池についての説明

③ 西村計雄記念美術館（共和町）

北海道後志支庁管内に点在する美術館・文学館を結ぶ「しりべしミュージアムロード」のひとつである西村計雄記念美術館は、北海道共和町の田園風景を見渡す丘陵地に開館しています。

画家西村計雄は、1909（明治42）年に小澤村（現共和町小沢）に生まれ、1929年に東京美術学校（現東京芸術大学）を卒業後、42歳の時単身で渡仏し、ピカソの画商・カーンワイラー氏に見出され、以後パリを拠点にヨーロッパ各地で個展を開催し活躍した方です。

中川館長の案内の後、自由に館内を見学しましたが、写真を撮ったり、お土産を買ったりと、皆様は大変有意義な時間を過ごしていました。



美術館の前で記念撮影

京極発電所の見学までは小雨模様で肌寒いくらいでしたが、それ以降から晴れ間が射し、過ごしやすい天気になりました。

今回も盛況のうちに見学会の全工程を終えることができました。ご参加の皆様、並びに関係者の皆様、ご協力有難うございました。

2. 一泊見学会

○日時：平成17年9月10日～11日

○見学先

- ・沙流川歴史館（平取町）
- ・森林復旧現場（門別町）
- ・厚別川復旧現場（門別町）
- ・日高育成牧場施設（浦河町）

○参加人数：23名

○懇親会：「うらかわ優駿ビレッジ AERL」

(1) 沙流川歴史館

沙流川歴史館は、沙流川流域の自然と歴史に関する学習機会の場を提供するため、二風谷ダム建設工事や治水、利水及び沙流川流域の自然等の資料・情報を収集・保存・展示し、一般利用者の理解を深めること、発掘調査によって出土した埋蔵文化財を保存・展示し、啓蒙・普及を図ることを目的に、1998年7月に北海道開発局室蘭開発建設部によって設立されています。

沙流川歴史館では、川筋に拓けた歴史を学ぶことができ、町内で出土した一万年くらい前からの考古資料を間近に観察することができます。また、ジオラマによって沙流川の自然、沙流川と人との関わり、アイヌ民族のチャシ跡の調査や切り出した木材を川の流れで下流に搬送していた当時の様子などを観ることができます。



チャシ跡の発掘調査の様子についての説明

歴史館は平取町の二風谷地区に位置し、周りには、国の重要有形民族文化財指定資料展示施設である「平取町立二風谷アイヌ文化博物館」等も隣接しています。

「沙流川歴史館だより」を年4回発行し、入場料も無料であることから、多くの子供達の学習の場としても活用されているようです。

(2) 平成15年 台風10号による災害復旧現場



平成15年 台風10号 厚別川当時の被災状況

平成15年に発生した台風10号により、8月9日夜から日高支庁管内では集中豪雨にあい、沙流川中流地域および厚別川上流地を中心として多くの被害が発生しました。

今回の一泊見学会では、平成15年台風10号による森林と厚別川の被災地の復旧状況を見学しました。

① 森林復旧現場

今回見学した厚別川上流域の正和地区では、山地崩壊・溪岸崩壊が著しく、溪床に大量の土砂・流木が堆積しており、次期降雨による土砂・流木の再流出防止のため災害関連緊急治山事業で床固工・谷止工を施工中でした。

説明にあたっては、北海道日高支庁の石川課長と猿渡係長より森林復旧の状況の説明をしていただきました。

② 厚別川復旧現場

平成15年の台風10号によって発生した厚別川の被害は流域全体にわたるもので、山地から河口まで流域全体での一体的な取り組みが重要となりました。

厚別川では、上流地区、ブケマ橋地点、赤無橋地点、厚別橋の4地点を重点的に見学しました。

説明にあたっては、北海道室蘭土木現業所静内総合治水事務所の宇佐美所長と株式会社シン技術コンサルの井脇専務と小林次長により、被災状況とその後の復旧作業状況を説明していただきました。



土砂崩れによる被災箇所の復旧工事を見学



厚別川の災害復旧現場

(3) 日高育成牧場

日高育成牧場は、日本中央競馬会宇都宮育成牧場日高支所として昭和29年に設立されています。

日高育成牧場での主要な業務は、サラブレッド若馬の育成調教を行っています。坂路芝馬場(2,400m)、グラス馬場直線馬場(直線2,000m)、屋内直線馬場(1,000m、ウッドチップ)、屋内トラック馬場(1周600m)、屋内坂路馬場(700m、ウッドチップ)を見学しました。

日高育成牧場では、森専門役により育成牧場の施設と競走馬の調教について説明をしていただきました。



アエル
AERLの丘より

また、一泊見学会では2日間とも晴天で、現場見学会には最適な気候でした。

ご参加の皆様と説明者の皆様のおかげで予定どおりに、見学会の全工程を終えることができました。ご参加の皆様、並びに関係者の皆様、ご協力有難うございました。

(文責：石村 正一)